

8月10日(月)

新しい契約

聖書朗読 ローマ 12:9~13

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネ 13:34

ずっと昔のことです。私たちは車で家族旅行に出かけました。氷雨が降り始めたので、夫は小さな町の中を運転するときに、スピードを落としました。対向車線を走っていた前方の車が、突然、左に曲がりながら私たちの車線に突っ込んできました。私たちは衝突を避けることができませんでした。夫は、車内の全員に怪我がないことをすばやく確認すると、車が故障していないか調べるため車外に出ました。私たちの三人の子どもたちは震えていましたが怪我はなく、相手の車の乗客にも怪我はありませんでした。そのあと、私は自分が怪我をしていることに気付きました。そして救急車で運ばれました。

夫がその町の教会へ電話をすると、すぐに「良きサマリア人」が夫を助けに来てくれました。クリスチャンの家族が、私たちの三人の子どもたち、そのうちの一人はまだおむつをつけていたのですが、ご自宅に連れて行ってくださいました。その夜に予定してあったクリスマスのディナーをキャンセルして、子どもたちの祖父母が迎えに来てくれるまで、一晩中子どもたちの面倒を見てくださいました。私は手術を受けるためにもっと大きな病院に移され、クリスマスイブに手術を受けました。

信仰の仲間から受けた思いやりを、忘れることは決してありません！

何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。それぞれが賜物を受けているのですから、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。

Iペテロ 4:8~10

讃美歌 403

祈り 親愛なるお父様。お互いに熱心に愛し合うことに向かって私たちが毎日成長していくことができますように祈ります。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョアン・ベンソン・ハッカー
アラバマ州 ハンツビル

今日のカ

2015年8月10日~8月16日

翻訳 ゲラ弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月11日(火)

不正がはびこるのは

聖書朗読 ローマ 16:25~27

私の福音とイエス・キリストの宣教によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、
ローマ 16:25

パウロは、ローマ人への手紙を「頌栄」(礼拝で神の栄光を讃える歌)で締めくくっています。私たちがイエス・キリストの福音の中に堅く立たせてくださった神様を讃える言葉で、人々に別れを告げています!

最も大切なのは、「堅く立つ」という言葉です。この言葉は「安定させる、しっかりさせる、固定させる、強くする」という意味で使われています。ローマ人への手紙の第1章では、神様から離れて生きる人生というものがどのようなものか、パウロによって説明されています。22節に描写されているように、その人たちは、自分では知者であると言いながら愚かな者となり、神に背く態度や行動をとることを選んだのです。私たちは、挫折や落胆の中にあるとき、神様のことを考えない人々は楽だろうなあと思いがちです。私たちは「なぜ神様のことを考えない人々が栄えるのだろう」と不思議に思います。こう思うことは新しいことではありません。詩編の詩人が、罪人が楽な人生を送っていることを嘆いて長々と不満を訴えています(詩編73)。しかし、詩編の詩人はそのことについてしっかりと考えてから、こう結論を出しています。『まことに、あなたは彼らをすべりやすい所に置き、彼らを滅びに突き落とされます。』(18節)。

クリスチャンが立っている場所はしっかりしています。しかし、福音を拒否する者は安全な場所に立っているように見えても、実はすべりやすい場所にいるのです。さあ、勇気を持ちなさい。あなたは堅固な地面に立っています。主があなたを堅く立たせてくださっています。

讃美歌 452

祈り 親愛なる主よ。不正な行いを避けることができるように助けてください。そして他人の目にどのように映るか、または自分がどう考えるかにかかわらず、私たちがあなたの王国の堅い地に立っているということに気づくようにしてください。

イエス様の御名のもとに。アーメン。

デール・ジェンキンス
テネシー州 スプリングヒル

8月12日(水)

しかり、しかり、しかり!

聖書朗読 IIコリント 1:18~24

神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。

IIコリント 1:20

パウロは、コリントの信者たちに向けて、神様は不明瞭な方でも矛盾する方でもないことを確信させるために手紙を書きました。その手紙にはこう書かれています。『あなたがたに対する私たちのことばは、「しかり」と言って、同時に「否」と言うようなものではありません。』(8節)。すなわち、あなたがたに述べ伝えた神の御子イエス様は、「しかり」と同時に「否」であるような方ではありません。この方には、「しかり」だけがあるのです。

現在では、「これをしなさい」、「それはしてはいけません」と命令する力は、通常、政府にあると見なされています。そして多くの人が神様のことは後回しにします。しかし、その逆が本当なのです。神様は、私たちに平和で充実した人生を送ってほしいのです。神様の命令は、私たちが悪人のしかける危険なわな、「地雷」を常に避けるためのものです。それはまた、イライラしながら道路地図を見ているときにも似ています。車を運転しているとき、「地図では高速101号を通れというけど、行きたい道は自分で選ぶさ」と思って運転した結果、結局何マイルも本道から離れてしまった場合、私たちは地図を非難することはできません。

考えてごらんください。神様の中にあるすべてのことは「しかり」なのです。神様はよろこんで「しかり!」とおっしゃいます。神様は私たちが喜ばせることが嬉しいのです。神様はいつの時にも善です。神様はよきことには「しかり」とおっしゃいますが、もし「否」とおっしゃる場合には、それがあなたのためには良い事なのだと信頼して大丈夫なのです。

讃美歌 288

祈り 聖なる神様。あなたの御名は偉大で、大いに讃えられます。あなたの意図が恵みであって呪いでないことに感謝します。あなたは善です——いつの時にも。

私たちの救い主イエス様を通して。アーメン。

ビル・ヘンガー

カリフォルニア州 ウエストレイクビレッジ

8月13日(木)

心を失うことなく

聖書朗読 IIコリント 4:7~18

あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。

ヘブル 12:3

その知らせは世界の隅々からの悲痛の苦しみに満ちていました。キリスト教は、迫害を受けることになりました。その知らせを聞いて落胆しない者はいませんでした。なぜなら、迫害を逃れることができる者などいないからです。ある人たちは、自暴自棄、自責、後悔、恐怖、侮辱、そして嘲笑に直面しました。

イエス様が生きておられた日々もそれと同じでした。戦争や貧困や犯罪がありました。人々の指導者であるローマ人は遊興にふけり、キリスト教は死にまでも至る迫害を受けていました。

それでも、イエス様が不満を言ったり、防衛的になったり、怒ったりして時間を無駄にすることはなかったのです。かわりに、イエス様はご自身の目的に集中なされました。ご自身のお父様について聞こうという者には誰でも、その愛と永遠のいのちの約束について教えました。

イエス様は、自棄の念、人々の嘲りや侮辱によって苦しみました。それでも、それを超えたものを見ておられました。イエス様はご自身のお母様の将来を案じました。また十字架にかけられた盗人をさえ慰められました。イエス様は神様に焦点を合わせて祈りました。十字架上にあつてさえも心を失いませんでした。

世界が怒りや憎しみに満ちていても、イエス様のように、私たちはそれらから離れて立つようにと呼ばれています。怒りには穏やかに対応し、憎しみには愛をもって応える。私たちはイエス様と、私たちの永遠の報酬に目を置きなさいと呼ばれているのです。

讃美歌 第二編 25

祈り 聖なる万能の神様、あなたの約束が一時的なものではないと分かっていることに、何と勇気づけられることでしょうか。お約束は永遠のものです。あなたの御子を通じて希望が持てることに感謝します。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

リンダ・ダルマン
ミシガン州 オナー

8月14日(金)

神様に注意を向けて

聖書朗読 エペソ 3:14~21

やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。
詩編 46:10

目標に注意を向けていることは、簡単なことではありません。過去について考えたり、未来を夢見たりすることなく、今現在のことに集中するということは、私たちの忙しく目まぐるしい人生を考えると、逆のような気がします。幼い子どもや病人の世話をしたり、仕事が忙しかったり、教会や地域社会で重要な役割を果たしているとしたらどうでしょうか。どのように神様に注意を向けていることができるのでしょうか。

マタイの福音書15章8~9節では、イエス様がパリサイ人の口先だけの信心について述べています。身体は戒めに従っていますが、心はどこかに離れているのです。パリサイ人は神様のおっしゃることを本当に熱心には聞いていません。自分自身がしたいことや、他人によって気をそがれることなく、その時その時に神様がおっしゃることを聞くということがとても大切です。

私たちは形式的には神様に注意を向けているように見えても、心は数マイルも離れているということがありますが、このような儀礼的なものはいけません。聖霊やみことば、救い主イエス・キリストが私たちを神様に導いてくださることを認識する時間を持ち、神様に感謝するのです。

神様に意識を向け、感謝し讃えるために、今日の日を目覚めましょう。私たちの心が神様に向けられていることを実際の行動で表せば、私たちも光輝くのです。

讃美歌 162

祈り 天国のお父様、私たちの心の中におられるあなたに焦点をあわせることによって、私たちがあなたを信頼する大切さを持ち続けることができることに感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

プルーデンス・C・ウィリアムズ
フロリダ州 ジャクソンビル

8月15日(土)

不注意な暮らし方

聖書朗読 エペソ 4:25~32

悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。

エペソ 4:29

多くの交通事故が、前方不注意によって引き起こされています。運転中に携帯電話でメッセージを送ったり、別のシートに置いてある何かを取ろうと手を伸ばしたりすれば、すぐさま前方不注意となり、事故を避けることが難しくなります。道路にはほかの車も走っているのですから、運転中は周囲で起こっていることに集中していることが大切です。周りのドライバーが私たちの運転に影響を及ぼすように、私たちの運転も他のドライバーに影響を与えています。

不注意な運転が悪いように、不注意な暮らしもまた悪いのです。不注意な暮らしとは、自分の生活で起こっていることだけに集中して、他人については考えない生き方のことです。エペソの4章の中で、パウロはクリスチャンは人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えるようにとっています。新約聖書の手紙では、クリスチャンはお互いに励まし合って徳を高め合うことの大切さが強調されています。

このように生きるためには、私たちは自分の世界から出て、他人が何を経験しているか見なければなりません。今日、励ましの言葉を必要としている人を見つけたら、励ましてあげましょう。その人の人生や困難について知りましょう。そして、私たち自身の来た道を振り返ってみながら、他人を助ける方法を探しましょう。

讚美歌 第二編 26

祈り お父様。あなたの導きに感謝します。あなたの御名によって、他人に奉仕することに集中し続けることができますように助けてください。他人にたいし、あなたの愛と関心を反映させることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州 コロンビア

8月16日(日)

開いた門

聖書朗読 コロサイ 4:1~6

同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。 コロサイ 4:3

神様の愛のメッセージをだれかに伝える機会をくださいと祈ることが、あなたほどのくらいありますか。私たちの西欧文化では多くのクリスチャンが、何をなぜ信じるのかということについて説明することを恐れます。それは以下のような言い訳からです。どこから始めればよいかわからない。他人を誤って導いてしまうかもしれない。話すとあがってしまう。厚かましいと思われるかもしれない。このような恐れはどこから来るのでしょうか。伝道を始めるには、伝道のしかたについて教えてくれるプログラムにそって学ぶこともよい方法かもしれません。

しかし、そのような教育は初期の教会にはありませんでした。イエス様の教えを聞くために町中の人々をどのように集めるか、サマリアの女に教えた人はいませんでした。彼女は走って町に帰り、イエス様が自分に言ったことを伝えたのです。アンデレは、伝道するための教育を受けてから、先生の話聞きに行こうとペテロを誘ったわけではありません。アクラとプリスカは日常の仕事をしに出かけましたが、そこで友人やお客たち全員にイエス様について話しました。

福音を世界に伝えることは、呼吸をするように自然であるべきです。今週、神様からあなたがどのような恵みを受けたか、一人の人に話しなさい。その人が似たような経験をしなかったかどうか尋ねなさい。そうすれば会話が始まります。それから会話が続くにつれ、どうすればよいかは聖霊があなたを導いてくれるでしょう。

讚美歌 502

祈り 私たちの救い主なる神様。あなたの福音を語るができるように門を開いてください。その門をくぐる事ができる勇気を私に与えてください。

私たちすべての者の恵みイエス様の御名において。アーメン。

シャーロット・メイズ
テキサス州 ラボック